

マイクロプラスチックになる人工芝 市営グラウンドを人工芝化しないよう 求める要望書を提出

市営グラウンドの人工芝化に向けた動き

私は東京都小平市で市議会議員をつとめていますが、市営グラウンドを人工芝化しようという動きに懸念を持っています。

小平市は、2019（令和元）年度に5つある市営グラウンドのひとつ「小川西グラウンド（8662㎡）」の人工芝化の検討資料を作成しましたが、コロナ禍で2020年度に人工芝化の予算が減額され、いったん休止となりました。しかし、市議会では人工芝化を進めるよう求める一般質問もあり、小平市体育協会を事務局とする「グラウンドの人工芝化等検討委員会」が昨年立ち上がるなど、中央公園グラウンドも含めて、人工芝化を検討する動きが出ています。

小平・環境の会が要望書を提出

そこで、私も名を連ねている「小平・環境の会」では、昨年8月24日に「小川西グラウンドを人工芝化しないよう求める要望書」を市長に手渡しました。要望書では、環境汚染の原因となる人工芝より、天然芝にするべきと求め

ました。

2050年には、海の中のプラスチックごみの重量が、魚の重量を超えるとも言われています。人工芝はマイクロプラスチック（5mm以下で、海洋生物などに影響を与える）の原因

となります。マイクロプラスチック流出の実態調査を行っている一般社団法人ピリカ（東京・渋谷）は、2021年3月、河川や港湾等で採取されたマイクロプラスチック全体の23.4%（質量比）を人工芝が占め、発生源として特定できた製品のうち最多であることを発表しています（自治体などと連携し、全国120地点の河川や港湾、湖を調査）。

人工芝化にかかる多大なコスト

昨年9月市議会定例会での市長答弁によると、小川西グラウンドを人工芝化するための予算総額は2億8000万円で、耐久年数は約10年です。

冒頭で紹介した「小川西グラウンド人工芝化検討資

料作成業務委託報告書（令和2年3月）」では、小川西グラウンドを人工芝化する初期施行費用は1億2390万円（工事のための仮設や管理費等を加えると2億230万円）、年間維持管理費は132万円と見積もっています。

一方、天然芝にした場合の初期施行費用は1億390万円（同様に工事のための費用等を加えると1億7150万円）、年間維持管理費は、1650万円とされています。10年後には、人工芝は張り替える必要があるため、10年後の累計費用は、人工芝が4億6593万円、天然芝が3億7445万円です。さらに20年後に再び張り替えた場合の累計費用は、人工芝が7億2923万円、天然芝が5億7863万円と、年数を経るごとに金額の差が大きくなります。

報告書では、天然芝の維持管理費用は、年間1650万円と見積もられていますが、小川西グラウンドよりも広い9896㎡の芝生がある立川公園野球場の管理費用は、令和3年の決算資料では、月1回の芝刈りと年1回のエアレーション、年2回の施肥で272万8千円、損傷した744㎡の芝張りも行った平成30年度が484万3千円です。1650万円は高すぎると思います。

さらに、2019年度から人工芝化した国分寺市けやき運動場（7500㎡）は、人工芝に年間約350万円の維持管理費用がかかっているそうです。報告書の人工芝の維持管理費用年間132万円は低すぎます。以上のように、耐用年数が10年と言われる人工芝は、天然芝と比べても多額の費用がかかり、財政面からも問題です。

充填剤のゴムチップも夏季の高温も問題に

人工芝にする場合、まず地面をアスファルト舗装して、その上に人工芝を敷き、充填剤としてゴムチップを撒きます。このゴムチップ自体がマイクロプラスチックになるので、EUの欧州化学物質庁（ECHA）は2019年1月、人工芝用ゴムチップを6年間の移行期間を経て完全禁止することを推奨しました。

<https://tenbou.nies.go.jp/navi/metadata/106258>

人工芝のマイクロプラスチックも含めて規制することになれば、20年間で約50万トンのマイクロプラスチックの放出を防げる可能性があるそうです。

また「小川西グラウンド人工芝化検討資料作成業務委託報告書」は、人工芝の問題点として「夏季には高温となる」ことを上げています。

温暖化をさらに進め、マイクロプラスチックの原因ともなる人工芝化は、環境保全の取り組みに明らかに逆行するもので、市の姿勢が問われます。

（小平市議会議員 水口かずえ）



要望書を手し、小平・環境の会のメンバー。

